

令和7年度 比治山大学
現代文化学部・健康栄養学部・短期大学部
一般選抜 前期B日程 問題

国 語

受験番号	
氏 名	

解答上の注意

1. この問題冊子は、表紙を含み1ページから11ページまであります。
また、解答用紙は1枚です。試験開始後、すぐに中を確認、印刷
や枚数などに不備と思われる点があれば、手を挙げて監督者に知ら
せなさい。
2. 解答は、すべて、解答用紙の所定の欄に記入しなさい。
3. この問題冊子と解答用紙を持ち出してはいけません。

I

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(設問中に字数制限がある場合、句読点等も字数に含む)

ヨーロッパの、古くからある都市をあるくと、いやおうなく気づかされることがある。パリでもローマでも、ウィーンでも、どこだつてかわまない。たいいていの街が、古びた建物をそのままつかいつづけている。そのことは、街を一目見たせば了解されえよう。

いや、それだけではない。街区をなりたさせている建造物群は、たがいに似かよっている。色や形、そして大きさなど、がそろった建物のならぶ様子も、見てとれる。

そのため、日本からはじめていった旅行者は、道にまよいやすくなる。同じような建物がつらなるため、自分がどこにいるのかをしばしば見うしなう。それで、迷子になつてしまったという経験のある日本人観光客は、すくなくないだろう。

日本の都市では、ビル街を構成する建物の構えが、ひとつひとつちがつていている。東京でも大阪でも、隣と同じ形状のビルをそろえた街区は、ほとんどない。建物の形は、それぞれ 的である。ほとんど近所の様子などを気にせず、自分たちの事情だけでそれらはできている。 がきわだつ度合いは、日本のほうが、はるかに高かるう。

ヨーロッパの都市建築には、全体のなかで自らをめだたせようとする志が、あまりない。街並のなかにとけこむよう、個々の建物はつとめている。街としてのまとまりを、なるべくみださないうにしよう。そんな想いが街をおおっているかのような都市景観に、あちらはなっている。市中できわだつのは、モニュメンタルによそわれた教会ぐらいだろう。

建築表現にかかわる地権者や建築家の自我が、ぞんぶんに開花しているとは言いがたい。ビル①の意匠は、個々の輝きより集合的な一体感を重んじる格好で、あんばいされている。その意味で、彼地の街並は集団主義的に構成されていると、みなしうる。

じじつ、ヨーロッパの都市では建築家の自由な表現が、なかなかゆるされない。とりわけ、古くからつづいている伝統的な都市では、それが強く規制されている。

市中に新しく建物をもうけようとする者は、あちらでもその図面を当局へ提出する。そして、建設の許可をもらうこととなる。ただ、ヨーロッパの場合は、街の建築委員会による意匠の審査も、うけなければならぬ。外観の形をきびしくしめる同委員会の許可がなければ、建設はみとめられないのである。そのため、じゅうらいの街並をそこないかねない表現は、なかなか街にあらわれない。

もちろん、日本でも新築の場合は、役所へ確認申請の書類と図面をだす必要がある。そして、役所の担当者は、申請された物件の安全性などをきびしくしらべることになる。

ただ、日本の役所がいちばんこだわるのは、もっぱらそこである。^②タイシン性はだいじょうぶか。火災時の避難経路は、ちゃんとできているか。人命にかかわるそういうところでは、そうとうしつこく、役所も申請者を問いつめる。

しかし、意匠的な側面には、あまり口をはさまない。となりの建築と調和がとれているかどうかは、ほとんど問題にもならないだろう。ビルの色や形は、地権者や建築家の自由^④に、ほぼゆだねられているのである。

オフィスビルには、ガラスの壁でおおわれた例が、^④ままある。ああいう外観にたいしてなら、行政による変更の要請もおこりうる。道路事情^⑤いかなによつては、太陽の反射光がドライバーのさまたげになるからである。とはいえ、それも意匠上の調和^⑥をおもんばかつての規制では、ありえない。安全を第一に考えての行政指導である。

京都のような観光都市では、いくらか景観規制がある。とくに、このごろはその抑制ぶりが、以前よりうるさくなってきた。しかし、パリやフレンチエとくらべれば、建設者側の自由をみとめる度合いは強い。どちらも京都の姉妹都市だが、今でも京都とのへだたりは圧倒的である。

アメリカの都市は、ヨーロッパより表現上のしびりが弱くなっている。それでも、ボストンやフィラデルフィアなどは、街並の調和をそれなりにもとめてきた。

ビルのならば街区では、隣接するビル^Bどうしが、デザイン上の対話をこころみている。たぶん、後でたったビルが、前からあるビルに気をつかい、挨拶をしているのだろう。そう想わせる場所は、アメリカの都心でもよく見かける。まあ、ラスベガスのように、てんでんばらばらなビルのあつまる街も、なくはないが。

いずれにせよ、欧米の都市建築は、都市景観のなかにマイボツしがちである。^③もちろん、個々の自己主張も、まったくないわけではない。だが、それも街並をみださない範囲で、こころみられるにとどまる。とりわけ、ヨーロッパの伝統的な都市に、その傾向ははっきり読みとれよう。

くらべれば、日本の都市建築は、表現面でみとめられる自由度が、そうとう大きくなっている。じつさい、街並を読みとり、その気配にあわせようとするビルは、ほとんど見かけない。たいいていの建築は、建設サイドの都合だけに心をくだいて、くみたてられている。

C この点に関するかぎり、自我をおしとおしているのは、日本のほうである。ヨーロッパは、そのエゴイズムを基本的にみとめない。地権者と建築家の自己主張については、これをきびしくおさえつけてきた。建築に関しては、ヨーロッパのほうが、はるかに集団主義的である。個人主義的なのは日本だと、そう言わざるをえない。

今私のがべたようなことは、あちらとこちらの都市を見くらべれば、すぐわかる。個人主義の発達にかかわるこむずかしい文献は、ひとつも読む必要がない。デリケートな心理学の実験も、不要である。とにかく、街をざつとながめれば、それだけで一目瞭然なのだから。

D にもかかわらず、とあえて書く。この誰が見てもあきらかな違いにもとづいて、日本人論を展開した人は、ひとりもない。

都市と建築を比較するかぎり、自我のヒタイ化を肯定したのは日本である。欧米、とりわけヨーロッパでは、それをおしとどめようとする力が、強くはたらいだ。「和をもつて貴し」とするような景観をこしらえたのは、あちらのほうである。日本の都市建築は、まわりの空気を読もうともしない。全体の「和」などは、^⑤歯牙にもかけてこなかった。

(井上章一『日本の醜さについて』による。)

問一 傍線部①～⑤の片仮名は漢字に、漢字はその読みを平仮名に、それぞれ改めなさい。

問二 二重傍線部イ・ロの文章中での意味として最も適当なものを、次のア～エの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

① ままある

ア 頻繁ではないが時々現れる
ウ 極めて稀な程度に存在する

イ 数え切れないほど存在する
エ 次第に多く現れてきている

② おもんばかって

ア この上もなく大切に思っ
ウ どうなることかと心配して

イ いろいろと思ひめぐらして
エ 決して壊さないようにして

問三 二箇所の空欄 に共通してあてはまる語として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 集合 イ 伝統 ウ 常識 エ 個性

問四 波線部 A 「彼地の街並は集団主義的に構成されている」とあるが、どういうことか。次の空欄を補うように、文章中から二十字以上三十字以内で抜き出して記しなさい。

ヨーロッパの都市建築には、全体の街並のなかで自らをめだたせようとする志というものがあまり存在しておらず、 という想いから、隣の建築との調和が図られている。

問五 波線部 B 「後でたったビルが、前からあるビルに気をつかい、挨拶をしている」とあるが、その説明として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 前からあるビルの権利を侵害してはならないと考えて、後でたったビルについては、日照や交通を邪魔しないようなデザインにしているということ。

イ 後でたったビルの住民が前からあるビルの住民とうまくやっていけるように、新しいビルのデザインについて意見を聞いてから建築しているということ。

ウ 後でたったビルについては、前からあるビルのデザインに調和するようにという配慮をして、どこかに共通点を持たせるようにしているということ。

エ 前からあるビルの個性を十分に尊重して、後でたったビルについては、デザインが前のビルと全く同じにはならないように気をつけているということ。

問六 波線部 C 「この点に関するかぎり、自我をおしとおしているのは、日本のほうである」とあるが、ヨーロッパに比べ、「日本のほう」が「自我をおしとお」することができているのはなぜか。文章中の語句を用いて四十字以上五十字以内で説明しなさい。

問七 波線部D「この誰が見てもあきらかな違いにもとづいて、日本人論を展開した人は、ひとりもない」とあるが、

なぜ筆者は建築の違いにもとづいて「日本人論を展開」しようと考えたのか。その説明として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 日本人は集団主義的だと思われるが、建築においては逆に欧米よりも個人主義的であり、そこに着目して論じること、これまでにない日本人の姿が見えてくるのではないかと考えたから。

イ 欧米の建築に比べて日本の建築は自己主張が激しいため、それらの建築物の特徴を見ていくことで日本人の意外な主体性が明らかになり、近代的な自我を育めるのではないかと考えたから。

ウ これまで誰も論じていない観点から日本人をとらえることで、「和をもつて貴し」とする日本人にふさわしい都市や建築についての新しいアイデアを得られるのではないかと考えたから。

エ 欧米と比較しながら日本の都市建築を論じること、都市の風景の調和がいかに自我の形成にかかわっているかをあきらかにし、日本人の新たな一面を発見できるのではないかと考えたから。

問八 この文章の内容に合致するものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ヨーロッパの古くからある都市で、街区をなりたたせている建造物群がたがいに似かよっているのは、欧米では近代的な自我が発達しており、建築の意匠の洗練にもそれが表れているからである。

イ 新しい建築物の申請が出されたとき、日本の役所が最もこだわるのは、建築表現にかかわる自我が開花しているかどうかではなく、申請された物件の安全性が確保されているかどうかである。

ウ ビルの色や形が自由な日本においても、京都のような観光都市においてはいくらか景観規制があり、姉妹都市であるパリやフレンチエにならって、建設者側の自由をみとめないようにしている。

エ 建築に関する限りは、ヨーロッパのほうが日本より集団主義的であり、日本こそが個人主義的であることが、それぞれの都市を見くらべなくても個人主義の発達にかかわる文献から明らかである。

II

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(設問中に字数制限がある場合、句読点等も字数に含む)

私が三十年近く友誼をいただいている方に、神経心理学者の山鳥重先生^{あつし}がいます。脳と心のつながりという極めて微妙な問題を、分かりやすい言葉で解き明かしてくれます。

脳が理解する、分かるのはどういうことかについても、素晴らしい記述があります。

山鳥先生によれば、分かるのとはいうことかについても、素晴らしい記述があります。浅い理解でどまりやすいのは、重ね合わせ的理解です。いわゆる小さなこまごまとした理解を積み重ねて、大きな理解を目ざします。(a) 現実とは、そううまくいくものではなく、いくら積み重ねても断片のままで残っているのが実情でしょう。

前に述べたピロリ菌の発見も、何千人何万人何十万人という内視鏡検査の蓄積があっても、不可能だったのです。

A これに対して、山鳥先生は発見的理解を推賞します。これには既存の理解や教科書は、あまり役に立ちません。自分で発見していくしかないかたちの理解です。それには自然というモデル^Bが参考になります。自然にはマニュアルがありません。自然の解明の足がかりとして立てられるとしたら、自分の考えた仮説くらいです。

この仮説に沿って自然を観察し、うまく説明できるかどうかを検証します。この検証には到達点がありません。

この山鳥先生の見解は、そのままキーツ^(注)のネガティブ・ケイパビリティを想起させます。キーツは詩人や作家が、ヒトを含めた自然と対峙したとき、今は理解できない事柄でも、不可思議さや神秘に対してセツソク^①に解決策を見出すのではなく、興味を抱いてその宙吊りの状態を耐えなさいと主張します。ヒトと自然の深い理解に行きつくのには、その方法しかないのです。そうやって得られた理解は、その本人にとつての地図になり海図になるのでしょうか。

キーツがそれまでにない深いかたちで古代を描いた長詩を書き、また現世的な恋愛詩を書くことができたのも、そのおかげでした。

分かったがる脳が、何やらわけの分からないものを前にして苦しむ実例が、音楽と絵画で見られます。

(b) クラシック音楽を初めて聴いたときなど、多くの人は「分からん」と言ってサジを投げます。しかしもともと音楽など分かるはずはなく、分からなくていいのです。味わうだけです。雄大な景色を味わうようにして、そこに

身をヒタせばいいだけの話です。晴れた日の山頂からの景色を見て、「分かった」と言う人はいないはずだ。^②

もともと音楽は、分かることなど前提としていません。答えが出ないものへの不断の挑戦と言っているでしょう。愛児を失ったどうにもならない悲しみ、（c）恋人を得たときの喜びを、歌詞や人の声、打楽器や管楽器、弦楽器がそのまま歌い上げます。答えを出してはおしまい、というような深みを音で追求していきます。分かることを拒否して、そのずつと奥の心のひだまで音は到達して、魂を揺さぶるのです。

分かることを拒否する点では抽象画も似ています。例えば、南仏のアンティーブでアパートから身を投げ、四十一歳で死んだニコラ・ド・スタールの「サッカー選手」と題された一連の作品があります。赤や黄や白、黒や紺のブロックのかたまりが、せめぎ合っているような画面です。サッカーを描くのであれば、数人がボールを取り合う写真が一番手っ取り早いのですが、ド・スタールの絵は、確実に写真を超えて、そのせめぎ合いが伝わってきます。色と色のブロックがぶつかっているところに、汗が飛び散り、周囲の色からはサポーターの声援も聞こえてきそうです。絵を前にして、見る人はサッカー場にいるサツカク^③がします。画家の興奮がこちらにも伝わり、応援したくなるような色と形、筆のタッチなのです。

分かることを拒否したうえで、さらなる高みで感覚に訴えるのが抽象画です。脳はまたそこで、自分^cが一段と進化した喜びを味わっているのかもしれない。

もうひとつ、最近心に残った随筆に、作家黒井千次氏の「知り過ぎた人」があります。

黒井氏は若い頃、某新聞の書評委員を務めていました。月二回ほどの会合に十数名が集まり、誰がどの本の書評を書くか決めるのです。その会合で、あるとき高名な大作家が、若手の文芸評論家で^④ハ克蘭強記で知られた大学教授に、ある質問をしたそうです。すると例によって外国語にも^⑤堪能なその教授は、即座にそれはこうこうですと答えました。こんなやりとりが何回も続いたため、大作家は「俺はもう、あんたにはものを訊ねないよ。^D何を訊いても知らないことがないのだから、つまらないよ」と、半ば冗談めかして言ったのです。

（芥川龍之介『ネガティブ・ケイパビリティ』による。）

注 キーツ……ジョン・キーツ（一七九五―一八二一）。イギリスのロマン派を代表する詩人。

問一 傍線部①～⑤の片仮名は漢字に、漢字はその読みを平仮名に、それぞれ改めなさい。

問二 空欄（ a ） （ c ） にあてはまる語を、次のア～オの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。
ただし同じ記号は一度しか選んではならない。

ア なぜなら イ 例えば ウ あるいは エ しかし オ つまり

問三 波線部 A 「これに対して」とあるが、「これ」が指しているのはどのようなことか。文章中の語句を用いて三十五字以上四十五字以内で説明しなさい。

問四 波線部 B 「自然というモデルが参考になります」とあるが、「自然というモデル」を参考にとすると、山鳥重氏の言う「発見的理解」とはどのようなものだと考えられるか。その説明として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 理解できない事柄を少しずつ解明していくことで自然が見えてくるように、小さなこまごまとした理解を積み重ねて大きな理解を目指すもの。

イ 既存の理解や教科書が役に立たない自然に対するときのように、自分の考えたマニユアルに沿って観察することで深い理解を手に入れるもの。

ウ 自分の考えた仮説を足がかりに検証を重ねて自然を解明していくように、分からないという状態に耐えながら探って、理解を深めていくもの。

エ 自然と対峙したときに出会う理解できない事柄に取り組むように、問題解決意識を持って意欲的に未知と向き合い、深い理解に行きつくもの。

問五 空欄 にあてはまる語として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自然 イ 不断 ウ 早急 エ 端的

問六 波線部 C「自分が一段と進化した喜び」とあるが、どのようなときに得られる喜びのことか。「拒否」「感覚」「魂」の三つの語を用いて四十字以上五十字以内で説明しなさい。

問七 波線部 D「何を訊いても知らないことがないのだから、つまらないよ」とあるが、大作家がこのように言ったのは大学教授との間でどのようなすれ違いが生じていたためと考えられるか。その説明として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 大学教授は大作家の質問にとにかく答えることを求められたと思ったが、大作家は質問の答え自体ではなく、大学教授が真剣に考えて議論してくれる人物かどうかを確かめるために質問をしていた。

イ 大学教授は大作家の質問にすべて答えることを求められたと思ったが、大作家はこの大学教授でも答えを知らない疑問について一緒に考えることを通して親交を深めることを会話の目的と考えていた。

ウ 大学教授は自分の知識を求められたと思って知っていることを答えただけだったが、大作家には大学教授の答え方が自分の知識の多さを自慢げにひけらかすような、鼻につく態度として感じられた。

エ 大学教授は単に質問に対する正しい答えを求められたと思ったが、大作家は質問に対する適切な答えが返ってくることを求めたのではなく、その疑問に一緒に向き合って考えることを求めている。

問八 この文章の内容に合致するものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 宇宙の成り立ちを知りたいと思ってさまざまな科学者の論文を読んだり、歴史上の人物について理解するためにその人物に関するさまざまな記録を読んだりすることは、浅い理解に留まりやすい例と言える。

イ ヒトと自然の深い理解に行きつくことができれば、それは地図や海図のような世界の見取り図となってくれて、見聞きしたことがないような遠い世界にも迷いや疑いを持たずに行くことができるようになる。

ウ 音楽は人に理解されることを目的としておらず、聴き慣れていない人にとってはとても分かりづらいも

のなので、表現されている感情や思いをどう理解すればよいかという正解を求めながら聞くことになる。

エ 抽象画は現実存在する人や物の姿を写實的に描き出すことを捨てて、ただ色のかたまりのみで表すこととで写真以上の現実らしさを生み出しており、よく見れば何が表現されているか分かるようになってい